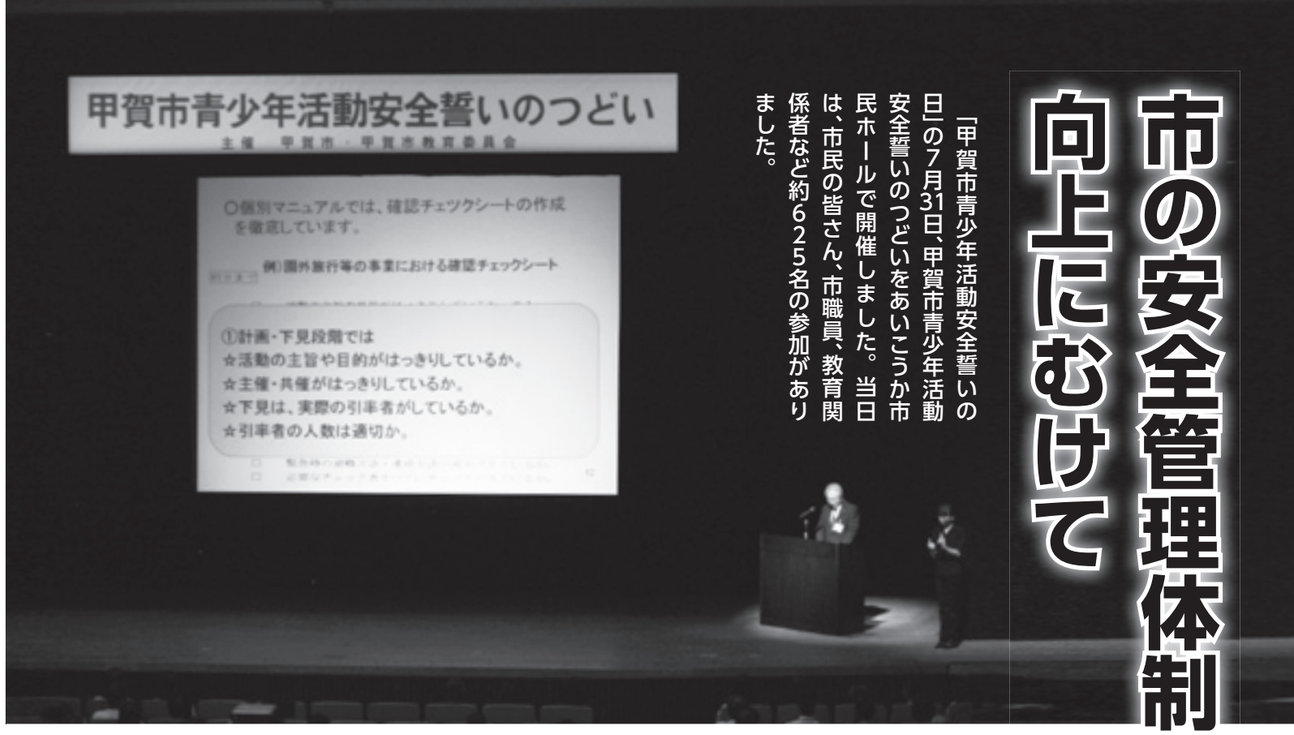
# 市の安全管理体制の向上にむけて

「甲賀市青少年活動安全誓いの日」の7月31日、甲賀市青少年活動安全誓いのつどいをあいこうか市民ホールで開催しました。当日は、市民の皆さん、市職員、教育関係者など約625名の参加がありました。




つどいでは、市が起こした4年前の四万十川水難事故でお亡くなりになられたお二人への黙祷をささげ、野外活動をはじめとする市の全ての事業の安心・安全の確保に全力を挙げて取り組むことをお誓いしました。

続いて中嶋市長があいさつし、「事故以来、再発防止の決意のもとに、あらゆる面で安全確保の対策を講じてきました。今後も人命を最優先し、細やかな対応を行う組織であるように、また、市民皆様が幸福で安心した暮らしを送っていただけるよう努力していきます」という考えを示しました。その後、安田副市長が一年間の市の安全管理の取り組み状況を報告し、早稲田大学理工学術院小松原教授から「人が守る安全 - ヒューマンエラー対策のために求められること - 」と題して講演をいただきました。

## 甲賀市安全管理の取り組み報告

市が事故を起こした原因は、「安全管理体制の不備」、「責任意識と安全意識の欠落」、「安全管理能力と指導力不足」、「目的・目標達成のための役割分担の不備」の4つでした。

これらを解消するための改善策として、「甲賀市事業執行安全管理体制審査委員会の設置」、「個別安全管理マニュアルの整備」、「職員の責任能力を強化するための研修会等の持続的実施」、「各職場での安全管理推進運動の実施」の4つを行ってきましたが、今年はこれに加えて、「甲賀市安全管理アドバイザーの設置」、「職場声かけ運動」、「ホームページを使った危機事象の情報発信」を新たに追加しました。

### 1 甲賀市事業執行安全管理体制審査委員会によるチェック

市の主催あるいは共催する事業の執行において、持続的な安全管理体制が確立されていることを管理するため「審査委員会」を開催し、全庁的な体制の構築に取り組み、不備があるものについては改善指導を実施してきました。

①信楽陶芸トリエンナーレにおけるマニュアル作成
②あいの土山マラソンにおけるマニュアル作成
③保育園の園外旅行等における問題の検証と是正
④「広島平和記念事業」、⑤「姉妹都市中学生交流事業」における役割分担の明確化
⑥「甲賀忍術学園事業」において安全な使用道具への変更
⑦「青少年野外体験活動ニンニン忍者キャンプ事業」における執行体制のチェック

### 2 甲賀市危機管理計画に基づく個別「安全管理マニュアル」の整備と見直し

市の各職場において業務対応のバラつきを防ぎ人事異動などにより、事業担当者が交代した場合でも、今まで培ってきた安全管理が引き継がれ、安全管理体制を維持できるよう個別「安全管理マニュアル」の整備と見直しを行ってきました。

昨年までに整備しました62のマニュアルに加え、新たに6つを追加し整備しました。

また、業務ごとにマニュアルの確認チェックシートの作成を徹底指導しています。

チェックシートでは、計画・下見段階、活動の種類、事業の実施段階、事業終了後に分けてチェック項目を設け、事業終了後には、計画や当日の実施状況について、参加者・スタッフが意見を出し合い次回につなげていくこととします。



### 3 職員の責任能力を強化するための研修会等の持続的実施

安全管理に対する責任能力を強化するには、各職場での危険を想定した研修を効果的に行う必要があります。そのため、各部局長を総括責任者として、学校も含めた122の職場で安全管理推進リーダーを設置しました。職場での研修が確実に行われるよう、所管している課長が安全管理推進委員となり、管理・監督を行います。

今年度の安全管理リーダー研修会は、安全管理アドバイザーによる、安全管理に対する職員のスキルアップをねらいとして計画し、また、自然体験活動に関わる職員を対象とした担当職員研修や市内青少年団体の一般指導者を対象とした青少年自然体験活動団体指導者研修を継続的に実施しています。

### 4 職場での安全管理推進運動の実施

職場での構成員一人ひとりが業務における責任能力・責任意識、安全意識・安全管理能力を強化するための「安全管理推進運動」に取り組みました。

7月を安全管理推進強調月間と位置づけ7月1日～15日までの期間に122の職場で1661名が参加し、安全管理推進運動に関する取り組みを行いました。事業の計画段階からあらゆる危険を想定し、日頃からいかに事故を防止し安全確保を行うかを話し合い、担当部局で検証しています。

**「人が守る安全」**

## ヒューマンエラー対策のために求められること

講演される小松原教授

講演では、ヒューマンエラーを起こさないようにするために欠けてはならない①専門性②心身の健康③チームワークなどを意味するノンテクニカルスキル④態度・マインドの4つの要素を示し、事故の例を通して説明されました。

守るべきは何か、危険なものは何かを一人ひとりがしっかり認識していくことが大切であることを改めて確かめ合い、人が支える安全対策という観点から事業を主催する指導的立場にある者やスタッフにとって学習する機会となりました。

## 新たな取り組み

### 1 甲賀市安全管理アドバイザーの設置

市の事業執行安全管理体制について、専門性、客観性を向上させるため外部からの専門家によるアドバイスをいただきます。

アドバイザーには、安全管理を専門とされ、日本人間工学・安全工学の第一人者で日本航空やJRなどの産業界で発生した事故調査に携わり、多くの安全管理の指導実績をお持ちの早稲田大学理工学術院教授小松原明哲（まさあきのり）さんに委嘱しました。

### 2 安全管理推進に伴う職場声かけ運動

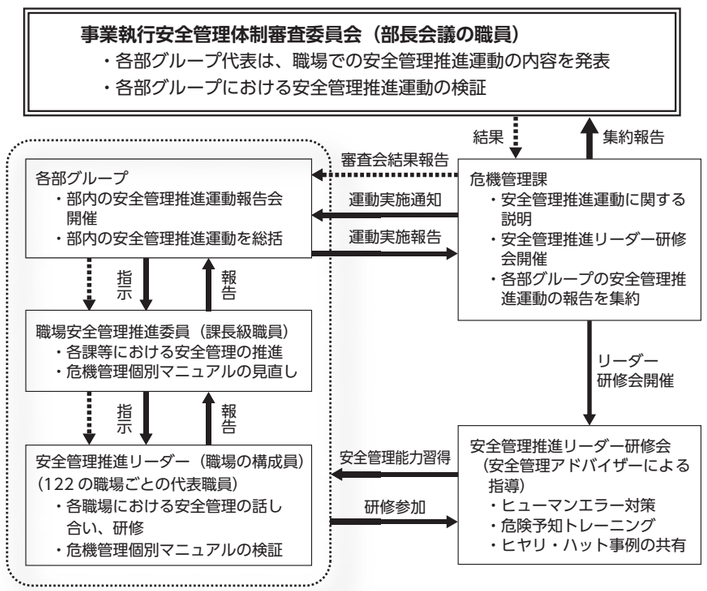
日常業務における安全管理上の問題を職員間で共有し、事故の未然防止につなげていくため、朝礼時などに職員がお互いに声かけをする「声かけ運動」によりコミュニケーションを図り事故防止につなげていきます。

### 3 ホームページによる危機事象の情報発信

正確な危機事実と情報を早期に収集し、ホームページで発信することが市民の安全・安心につながると考えています。

今までに「新型インフルエンザ」や「油の流出事故」などの情報を発信してきましたが、今後も迅速な情報の提供に努めます。

**安全管理推進運動実施体系図**




## 今後の安全管理の取り組み

このように、体制整備や安全運動の取り組みは実施できてきているものの、まだまだ改善すべき課題が存在しています。とりわけ、職員の事故に対する認識を高め、運動を形骸化しないため、四万十川水難事故から安全管理の大切さを心で学ぶため全職員を対象とした研修会を開催し、更には、職員がスキルを高め真正面から安全管理に向き合うための研修も行っていきます。また、業務を分かりやすくし安全管理の透明性を高めるとともに、現場重視の安全管理計画の作成を指導していきます。

こういった取り組みの中で、今年も安全に事業が実施できましたと来年のつどいで市民の皆様にご報告できるよう、安全管理の実績を積み上げていきます。